

オーストリア出身の新進ジャズ・シンガー、シモーネのセカンド・アルバム『ロマンス』の登場だ。2004年2月に出たデビュー作『ムーンライト・セレナーデ』は、ピアノ・トリオと共演したスタンダード・ソング集だった。ピアノ・トリオのメンバーは、フィラデルフィア出身の中堅ピアニストのジョン・ディ・マルティーノ、オーストリア出身ニューヨークで活躍中のベース奏者ハンス・グラヴィシュニック、シモーネの弟でドラム奏者のフィリップ・カップマイヤー。セカンド・アルバムではピアノのマルティーノのみ同じで、ベースにジョージ・ムラーツ、ドラムにティム・ホーナー、そしてゲストにテナー・サクスのエリック・アレキサンダーを迎えた。ムラーツはジャズ・ファンなら知らない人はいないベテランの名人。チェコ共和国ピセフ出身なので、シモーネと故郷が近い。親近感を持って共演が行われたものと思われる。ティム・ホーナーはバージニア州ロアノーク出身。両親共にミュージシャンで、1980年にニューヨークに進出している。エリック・アレキサンダーはストレート Ahead・ジャズの人気テナー・サクス奏者。ヴィーナスレコード制作のリーダー・アルバムも好評を博している。シモーネの第2弾はムラーツやアレキサンダーなどの参加により、前作以上にジャズ・ボーカル作品としての魅力が増している。

選曲は前作同様にジャズのレパトリーとして知られているスタンダード・ソングが中心だ。コンテンポラリーな楽曲「ホワットエバー・ハプンズ」、ミシェル・ルグランやアントニオ・カルロス・ジョビン作曲の渋めだが素晴らしい名曲を取りあげるなど、シモーネの楽曲に対するセンスや個性の表われた選曲集になっている。シモーネのレパトリーをみれば、前向きでポジティブな思い、誠実さとやさしさ、女性らしい可愛らしさなどが歌われたナンバーが多い。それはそのまま彼女のボーカルにも当てはまる。正統派のジャズ・ボーカルをベースにしながらも、スタイルに拘束されず、培ってきた自分の音楽の好みやセンスに合うボーカル表現を心がけているようだ。隣国スイスのシンガー&ピアニスト、エルジー・ピアンキにどこか通じるようなヨーロッパの香りと陽光の明るさが、シモーネのボーカルからも感じることができる。とはいえ、北欧やオランダなどと違い、知られているジャズ・シンガーの少ない国なので類推はしにくいが、楽聖の国オーストリアの音楽一家生まれという出自と環境が彼女の音楽に与えた影響は少なくないだろう。

シモーネのフルネームは、シモーネ・カップマイヤー（Simone Kopmajer）。1981年9月23日、シュタイヤマルク州シュラードミング生まれ。音楽の盛んな州都グラーツや古都ザルツブルグから近く、スキーで有名な交易路の要所の町だ。両親ともに音楽教師で、父親は音楽学校の校長であり、その一方でビッグ・バンドを率いて活動している。シモーネは8歳からピアノを始め、12歳から父のビッグ・バンドで歌っている。グラーツの音楽大学のジャズ科で学んだ。大学ではシーラ・ジョーダンやマーク・マーフィーなどの教えを受ける機会もあ

- Romance**  
ロマンス
- Simone with Romantic Jazz Trio**  
シモーネ&ロマンティック・ジャズ・トリオ
- ハウ・ドゥ・ユー・キープ・ザ・ミュージック・プレイング**  
How Do You Keep The Music Playing 〈A & M. Bergman - M. Legrand 〉(3:36)
  - ア・ブロッサム・フェル**  
A Blossom Fell 〈H. Barnes, H. Cornelius, D. John 〉( 3:57)
  - ウィ・キス・イン・ア・シャドウ**  
We Kiss In A Shadow 〈O. Hammerstein - R. Rodgers 〉(4:06)\*
  - コーリング・ユー**  
Calling You 〈B. Teison 〉( 5:26)\*
  - ホワットエバー・ハプンズ**  
Whatever Happens 〈B. Withers 〉(5:24)
  - エグザクトリー・ライク・ユー**  
Exactly Like You 〈D. Fields -J. McHugh 〉(5:43)
  - サムワン・トゥ・ライト・アップ・マイ・ライフ**  
Someone To Light Up My Life 〈G. Lees - A. C. Jobim 〉(5:23)
  - ア・タイム・フォー・ラブ**  
A Time For Love 〈P. F. Webster - J. Mandel 〉(5:35)
  - ホエア・オア・ホエン**  
Where Or When 〈L. Hart - R. Rodgers 〉(5:16)\*
  - ジャスト・スクィーズ・ミー**  
Just Squeeze Me ( But Don't Tease Me ) 〈L. Gaines - D. Ellington 〉(4:49)
  - ホワットエバー・ハプンズ~リプライズ**  
Whatever Happens ~ reprise 〈B. Withers 〉(2:57)

シモーネ Simone {vocal }  
ジョン・ディ・マルティーノ John Di Martino { piano and all arrangements }  
ジョージ・ムラツ George Mraz { bass }  
ティム・ホーナー Tim Horner { drums }  
エリック・アレキサンダー Eric Alexander { tenor sax } \*  
録音：2004年4月13、14日 アヴァター・スタジオ、ニューヨーク

©© 2004 Venus Records, Inc. Manufactured by Venus Records, Inc., Tokyo, Japan.

\*  
Produced by Tetsuo Hara and Todd Barkan.  
Recorded by David Darlington at Avatar Studio  
in New York on April 13 & 14 , 2004.  
Mixed and Mastered by Venus 24bit Hyper Magnum Sound :  
Shuji Kitamura and Tetsuo Hara.  
Artist photos by John Abbott. Designed by Taz.

った。グラーツでは海外の有名ジャズ・ミュージシャンのライブも多いようだ。そして、1999年頃からアメリカでも活動するようになり、実力を磨いたシモーネはヴィーナスレコードの目に止まったというわけだ。現在、シモーネはオーストリアとアメリカの両方で音楽活動を行なっている。今後はさらに世界的な知名度を高めることになりそうだ。それでは、セカンド・アルバムの収録曲を紹介していくことにしよう。

- ハウ・ドゥ・ユー・キープ・ザ・ミュージック・プレイング

ミシェル・ルグランの作曲、アラン&マリリン・バーグマン夫妻の作詞。映画『結婚しない族』(Best Friends)の主題歌。人間関係のよき継続を音楽にたとえた含蓄のある歌だ。シモーネのささやくようなボーカルがいい。
- ブロッサム・フェル

ナット・キング・コールが大ヒットさせたバラード。ハワード・バーンズ、ハロルド・コーネリウス、ドミニク・ジョンの共作。花が散ってしまったという意味の曲名の失恋歌。ここではラテン・タッチのアレンジで歌われており、間奏でみせるジョージ・ムラーツのベースの歌心も印象的だ。
- ウィ・キス・イン・ア・シャドウ

ミュージカル『王様と私』から生まれたナンバー。リチャード・ロジャースの作曲、オスカー・ハマースタイン2世の作詞。原曲はオベ

ラ風だが、スインギーなナンバーに編曲されている。エリック・アレキサンダーのサクスがフィーチャーされる。

- コーリング・ユー

映画『バグダッド・カフェ』の主題歌で、ジュベッタ・スティールが歌った。ホリー・コールのカバー・バージョンもヒットした。作曲家/ピアニストのボブ・テルソンの作曲。この曲がジャジーなアレンジと歌で聴けるのはうれしい。
- ホワットエバー・ハプンズ

ラリー・カールトン、ビル・ウィザースの共作によるアダルト・コンテンポラリー系のバラード。カールトンのギター、ウィザースやパネッサ・ウイリアムスのボーカル録音がある。心安らぐ幸福の歌だ。シモーネはゆったりとスイングする歌を聴かせる。

- エグザクトリー・ライク・ユー

「捧げるは愛のみ」を生んだ作曲ジミー・マクヒュー、作詞ドロシー・フィールズのコンビによるこれも人気スタンダード・ソング。この曲のシモーネの歌もさりげない色気を感じさせる。

- サムワン・トゥ・ライト・アップ・マイ・ライフ

アントニオ・カルロス・ジョビンの作曲、ヴィニシウス・ヂ・モライスの作詞。元の曲名は『Se todos fossem iguais a voce』。英語版がリリースされたときこの曲名と歌詞が付いた。
- ア・タイム・フォー・ラブ

ジョニー・マンデルが映画『アメリカン・ドリーム』のために作曲したバラード。作詞はポール・フランシス・ウエブスター。このような優雅な品のあるボーカルがシモーネのよさだろう。

- ホエア・オア・ホエン

「マイ・ファニー・バレンタイン」が生まれたミュージカル『ベイブス・イン・アームズ』中のナンバー。この曲もスタンダード・ソングになった。リチャード・ロジャースの作曲、ロレンツ・ハートの作詞。エリック・アレキサンダーのテナー・サクスとジョン・ディ・マルティーノのピアノがフィーチャーされたジャズ色濃厚のバージョンだ。

- ジャスト・スクィーズ・ミー

デューク・エリントンの作曲、後からリー・ゲインズの歌詞が付けられたときにこの曲名になった。Squeezeには「きつく抱く」「搾り出す」などの意味がある。シモーネの歌はさりげない色気を感じさせる。

- ホワットエバー・ハプンズ (Reprise)

冒頭曲とは異なるバージョンでラストが締めくくられる。冒頭ではピアノ・トリオとの共演だったが、こんどはピアノとのデュオ。エンディングに似合うバージョンだ。

(高井信成)